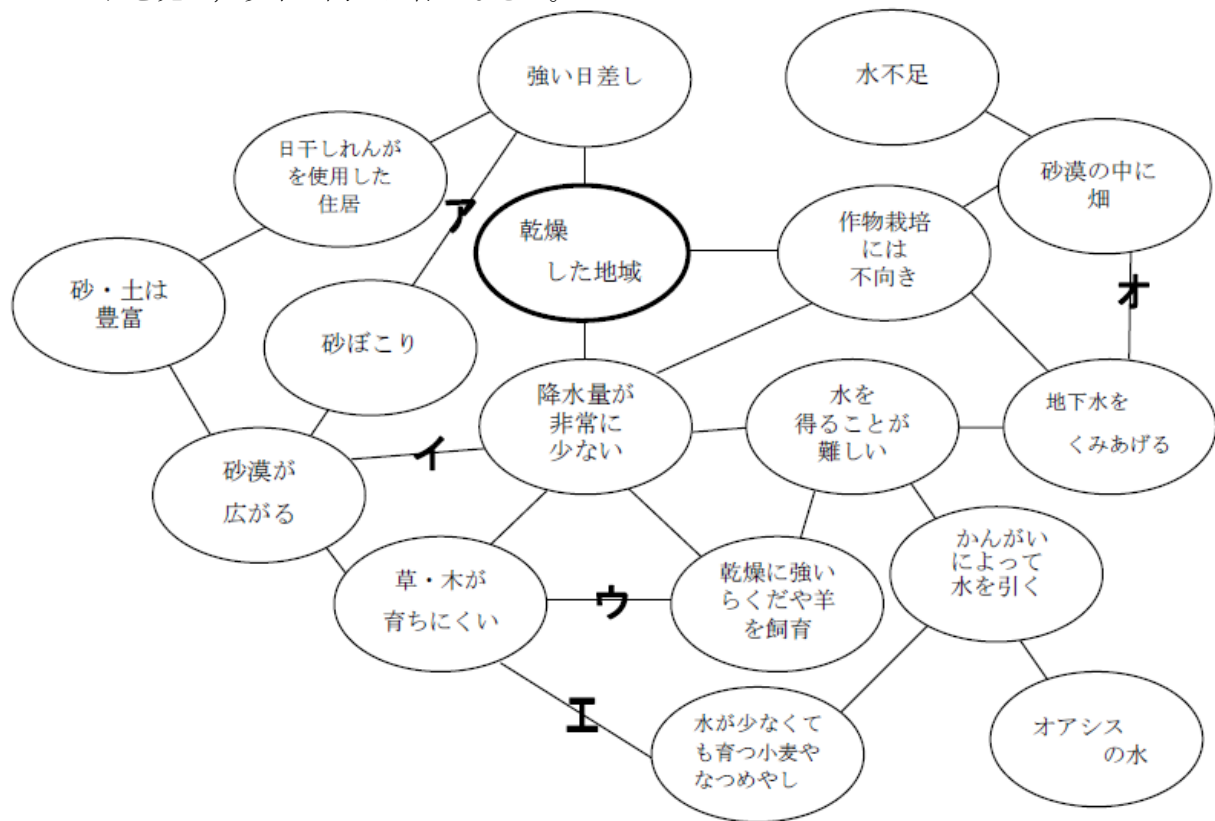


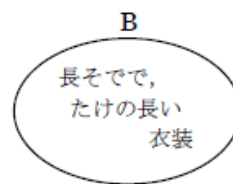
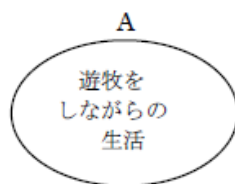
テスト問題を通して、
単純に覚えていても、使えないと、あまり役に立たないな…という気付きを促す。

■文脈の中で、もっている情報を使えるか①

花子さんは、乾燥した地域の暮らしについて、下のように、関連付けてまとめました。
これを見て、以下の問いに答えなさい。



- 1：次のA・Bは、花子さんのまとめにあるア～オのどこに書き入れるのがふさわしいですか、それぞれ記号で答えなさい。



- 2：このまとめをもとに、花子さんは、ノートに振り返りを記述していました。振り返りの中にある空欄Cにあてはまる語句を答えなさい。

【花子さんの振り返り】

乾燥した地域では、自然環境をいかしたり、
(C) したりして生活していることがわかりました。他の地域でもそのようにして人々がくらしているのか、寒い地域の学習で確認したいです。

解答例：克服／適応など

「遊牧」や「オアシス」という語句を問いたいと思われるかもしれません。また、生徒たちも、それが問われそうだと思っているかもしれません。

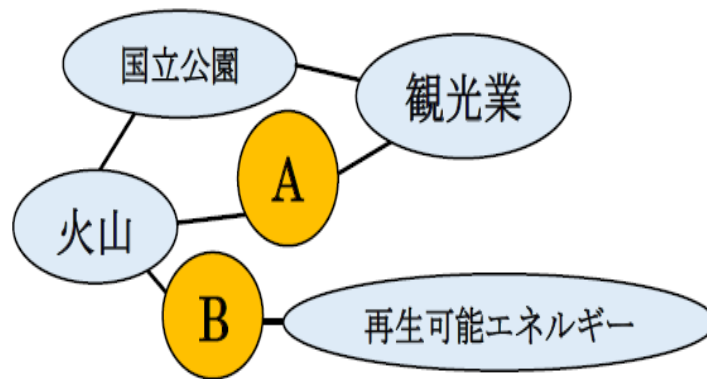
中学校になってはじめてのテスト。覚えることがテスト勉強のすべてではないことを印象付ける一例です。また、テストを通して、関連付けて考えることの訓練という意図もあります。

語句を記憶することがねらいではなく、振り返りの記述のような知識を習得することが、この単元のねらいであることを、テスト問題を通して生徒と共有できます。

■文脈の中で、もっている情報を使えるか②

1：火山の存在がもたらす影響として考えられることを、マッピングでまとめたものである。

A・Bにあてはまる語句を答えなさい。



こちらも先ほどと同じく、関連付ける問題になっています。

A・Bに入りそうな語句が頭の中にあっても、意味付けられた文脈の中で使えなければなりません。

みなさんは、この問題を見て、単元「日本の諸地域」でいうと、何地方から出題されたものか、イメージがわかりますか？
すぐに九州地方が思い浮かんだ先生、さすがです。そのとおり、九州地方からの出題でした。

だけど九州地方がすぐに思い浮かんだ先生は、もしかすると授業で“九州を教えよう”という意識が強く働きすぎている可能性もあります。

マッピングをみると、これは、九州地方に限ったことではなく、
北海道であっても、ニュージーランドなどであっても、火山のある地域に共通してみられそうなことではありませんか？

そこに出題の意図があります。

テストを通じて「九州を学習する」ととどまらず、「九州で学習する」という意識を高める。

九州で学習したことが、他の事象を紐解く手がかりになり得ることを気付かせたいのです。

ポイントは、問題のリード文やマッピングの中に、「固有名詞」を用いないことです。

問題のリード文やマッピング中に、「阿蘇山」や「桜島」があれば、それはたちまち、“九州のこと”と認識され、
他の事象を紐解く手がかりになるような知識として、頭の中に整理されない可能性があります。

「一般名詞」を用いることで、汎用性のある、方法的な知識としてインプットさせようというねらいがありました。

また、この問題にはもうひとつ工夫があります。

問題を解くとわかります。

Aにあてはまる語句は何でしょうか。「温泉」もあてはまるし、「カルデラ」などもOKでしょう。

Bには「地熱」だけでなく、「マグマ」と書いてもよさそうです。

テスト中にあてはまる語句が複数考えられることに気付く生徒がいればうれしいですね。

テスト返却時に、正解だった生徒に解答は本当にそれだけか？と問うと、きょんとします。

「他にもいえることがないか」という思考を、テストやテスト返却という学習活動を通して鍛えることがねらいです。